

「福祉村構想」実現へ

市医師会が市に要望書



金澤市長(右)に要望書を提出する沖会長(左)

苫小牧市医師会(沖一郎会長)は25日、「福祉村構想」の実現を目指し、要望書を金澤俊市長に提出した。医療・介護分野の人手不足や増え続けるニーズに対応するため、市中心部に施設を整備して医療・介護機能を集約する構想。市役所を訪れた沖会長は「なるべく早く実現を」と訴え、金澤市長は「ニーズは間違いなくある。鋭意検討したい」と述べた。

医療・介護機能を 中心部に集約

医師会は今までも「福祉村構想」を抱いてきたが、具体的に詳細を示して市に要望するのは初めて。中心部の活性化も見据え、市旭町に施設の新設を想定している。今後不足が予想される医療・介護従事者を効率的に配置するとともに、医療・介護機能を

としては、在宅看護をサポートする看護小規模多機能型居宅介護、訪問看護・介護ステーション、サービス付き高齢者住宅などを想定。併せて自力移動が困難な在宅療養者や介護者向けの医療機関への移動サービス、老朽化しているあさひ児童センターの移転なども提案している。

現時期などは今後の検討課題だが、要望では運営主体について、市と医師会が共同出資する一般財団法人ハスカッププラザが「官民連携の観点からも最適」とした。とまこまい医療介護連携センター(市旭町)や市保健センター(同)との連携も視野に入れる。

要望書を提出した沖会長は「福祉医療のニーズをストップで提供できる集約したい」などと話し、「関係者で話し合っ決めたい」と強調。市や医師会などで早期にプロジェクト組織を立ち上げ、具体的な検討を始めるよう訴えた。金澤市長は「医療資が限られてくる中、医師と話しながら考えていかければならない問題」と認識を示した。